

公立大学法人島根県立大学広報誌
オロリン

ORO RIN



島根県立大学

The University of Shimane

2015.6 第4号

Vol.
04

公立大学法人島根県立大学広報誌 ORO RIN 2015年6月1日発行 編集・発行／島根県立大学 企画調整室 〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2 TEL.0855-24-2201 FAX.0855-24-2208 http://www.u-shimane.ac.jp/

学長インタビュー

高い就職率を誇る 県立大学のキャリア支援

旬の県大情報が
盛り沢山!

特集:キャリア支援
3キャンパス独自の
キャリア支援の特色

学生活動「doing」
学生×大学×地域
繋ぐ架け橋となる県大生

平成28年、
出雲キャンパスでは、
看護師資格を持つ方の更なる
ステップアップとして、
より高度かつ専門的な
看護実践力を身につける
ための新たな取り組みが
はじまります。

島根県立大学大学院 看護学研究科(修士課程)

平成28年4月開設予定(設置認可申請中)

島根県の健康課題を深く理解し、保健・医療・福祉の質の向上に向けて、主体的に探求できる研究能力を備え、地域医療を牽引する優れた看護実践者を育成するため、より高度な学びの場を提供すべく、大学院看護学研究科を新たに開設します。

■設置する専門領域
がん看護学・精神看護学・高齢者リハビリテーション看護学・地域保健学

■お問い合わせ
出雲キャンパス 教務学生課
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL.0853-20-0200 FAX.0853-20-0201

出雲で学び
出雲で踏み出す
さらなる一歩

緩和ケア認定看護師教育課程

平成28年設置予定(設置認定申請中)

特定の看護分野において、専門的知識と熟練した看護技術を用いた水準の高い看護実践と倫理的判断のできる認定看護師を育成するため、専門的教育課程を設置します。

目的1 緩和ケアを受ける患者とその家族等のQOL向上を目指し、水準の高い看護を実践する能力を育成

目的2 緩和ケアの領域において、専門的知識と看護実践を通して他の看護職者に対し、指導・相談ができる能力を育成

■お問い合わせ
しまね看護交流センター
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL.0853-20-0220 FAX.0853-20-0227

オープン キャンパス 2015

OPEN
CAMPUS



浜田キャンパス HAMADA Campus

第1回▶7.18土(午後のみ) 第2回▶8.9日 第3回▶9.13日(午後のみ)

出雲キャンパス IZUMO Campus

第1回▶7.18土 第2回▶10.10土

松江キャンパス MATSUE Campus

第1回▶7.18土 ミニオープンキャンパス▶9.26土

島根県立大学の取り組みや最新情報は、ホームページでも配信しています。ぜひご覧ください。



島根県立大学
マスコットキャラクター オロリン

島根県立大学 検索

http://www.u-shimane.ac.jp/

島根県立大学はキャンパス内全エリア禁煙に取り組んでいます。

特集

長期にわたる高い就職率を裏付ける 島根県立大学独自のキャリア支援

浜田・出雲・松江、すべてのキャンパスにおいて高い就職率を誇る島根県立大学。その成果を裏で支えるのが、各キャンパスに置かれた「キャリアセンター」を中心としたキャリア支援に対する多角的な取り組みです。こうしたキャリア支援に対する考えを、本田雄一学長と久保田典男キャリアセンター長にそれぞれお聞きしました。

人材育成

大学が育成すべき人材像について、大学の憲章の第1項目に「市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する」と、明らかにしています。これを実現していくことが大学の教育目標になります。

では、そのために何をすべきかということですが、まず第一に、「学習のモチベーションを高める取り組み」があります。受動的な教育主体の高校生と違い、大学生は主体的に考えて学ぶという姿勢が求められるので、学習に対する考え方を大きく変えなければいけません。そこで、特に初年次教育では、それに対する取り組みが大切になります。

これを実践するのが、アクティブ・ラーニング(学生自ら能動的に働きかけて積極的に学ぶ)への取り組みで、代表的なものでは、浜田キャンパス1年生の必修科目である「フレッシユマン・フィールド・セミナー」がありま

す。これは学生が島根の各地域に出かけ、様々な職業の方のお話を聞き、その現場の現状を把握した上で、課題の発見から解決まで主体的に考え、最終的には成果発表として解決策を提案するまでのカリキュラムです。また、外国に研修の場を求める「異文化理解研修」や「海外企業研修」も、学習モチベーションを高める取り組みのひとつとして位置づけています。こうした取り組みで学生の学習意欲を高め、そこから、語学や情報、総合教養の教育を経て、個別の

専門科目に繋がっていく教育体系を1年生から4年生まで系統的に配置して、学生の成長を促していきます。



本田 雄一 学長

キャリア支援
本学の特筆すべき特色としては、入学から卒業までの一貫したキャリア教育の実施があります。これについては次項で詳しく触れていますが、それら多角的な取り組みを支えるのが「キャリアセンター」です。この独立した専門組織を中心に、学生と長い時間を共にするゼミの先生方との連携を図り、学生個々の状況や希望に応じてきめ細かい就職活動の支援をおこなっています。専門職教育が中心となる出雲と松江キャンパスについても手厚い支援がありますが、カリキュラムそのものがキャリアに結びつく科目構成になっているのも本学の特色です。一般職となる総合政策学部(浜田)と総合文化学

科(松江)については、特にキャリアセンターを中心としたきめ細やかな就職支援、キャリア教育への取り組みが、現在の高い就職率を実現しているものと高く評価しています。

就活学生へメッセージ

職業を通じて社会貢献するという基本的な考え方を持っていて欲しいと思いますし、自分によさわしい就職先、職業分野があることを確信を持って就職活動に取り組んで欲しいですね。結果としてどのような職業に就いたとしても、自分の置かれた状況の中で精一杯頑張ることが大切だと言いうことを肝に銘じて頑張ってください。

松江キャンパス

福岡 悟子さん

Q、今の職に就いたきっかけは？

A、観光関連の授業を受講した際、松江の魅力を再確認しました。生まれ育った街が元気になるための手助けをする仕事してみたいという思いから興味を持ったのがきっかけです。

Q、在学中に力を入れて取り組んでいたことは？

A、所属する学科系の授業のみでなく、それ以外にも興味のあるものはほとんど受講していました。また、資格取得にも積極的に取り組みました。勉強だけではなく、図書館にも毎日のように通い、本もたくさん読みました。

Q、在学中に受けたキャリア支援を振り返ってみての印象は？

A、面接対策として、キャリアアドバイザーの方と何度も練習しました。回数を重ねることで自信に繋がりが、面接当日は落ち着いて答えられました。

Q、今後の目標は？

A、現在、仕事上さまざまな人と出会い、刺激をもらう日々の連続です。今後も人との関わりを大事にし、日々努力して成長していきたいと思っています。



卒業年度
2011年3月
卒業学部/学科
総合文化学科/英語文化系
就職先
松江商工会議所 観光振興課

出雲キャンパス

美藤 ゆかりさん

Q、今の職に就いたきっかけは？

A、中学生の時にテレビを見て、将来発展途上で働きたいと思うようになり、看護師になることを決意しました。その後、在学中に海外で活躍されている徳永瑞子先生の講演を聞き、助産師になろうと思いました。

Q、在学中に力を入れて取り組んでいたことは？

A、もちろん助産師や看護師になるための勉強ですが、ほかにも視野を広げ、経験値を上げるために、海外ボランティア旅行にも出かけました。

Q、在学中に受けたキャリア支援を振り返ってみての印象は？

A、海外で働いていた際、働いた経験のある方の講義や講演は、海外へ視線が向いている私にとって非常に役立ちました。

Q、今後の目標は？

A、以前訪れたラオスの経験を生かして、開発途上国支援や母子保健についても詳しく学び、国際機関の母子保健分野等で活動できる人になりたいと思っています。また、同様に海外で働きたいと思っている学生の指導も行っていました。



卒業年度
2008年3月
卒業学部/学科
専攻科/助産学専攻
(2007年3月看護学科)
就職先
産科婦人科医院

浜田キャンパス

仲宗根 大輔さん

Q、今の職に就いたきっかけは？

A、元々、地域に貢献する企業で働きたいと考えていました。2年生時、ゼミでJ-IRと自治体の合同の活性化協議会に参加させていただき、交通インフラという面から、地域を支える企業としての魅力を感じました。

Q、在学中に力を入れて取り組んでいたことは？

A、ゼミを通じて中山間地域に入り、たくさんのフィールドで事例研究を行いました。そして地域連携推進室からのボランティア紹介やBBSサークルを通じて、子供たちと大自然の中でキャンプをしたり、学習支援などを行いました。

Q、在学中に受けたキャリア支援を振り返ってみての印象は？

A、二人一人と向き合ってくれたこと、模擬面接を受けた第三者からの意見も新鮮でしたし、自分では気付かない癖なども指摘を受け、修正してから本番に臨めました。

Q、今後の目標は？

A、現在はお客様と直に接する場所でも働いていますが、将来的には支社勤務として企画などを通じ、鉄道という交通インフラの観点から地域振興に繋がってほしいと思っています。



卒業年度
2013年3月
卒業学部/学科
総合政策学部/総合政策学科
就職先
西日本旅客鉄道株式会社

広い視野で3キャンパスを考える センター長から見たキャリア支援

本学では入学時から段階的かつ包括的なキャリア教育プログラムを全キャンパスで用意しているだけでなく、学生一人一人のキャリア支援に個別対応している点が、大きな特徴です。つまり、学生個々のニーズや個性を把握した上で、教職員が個別に対応しているのです。こうしたきめ細やかな支援が、高い就職率に繋がっているのだと思います。

本学の場合、3キャンパスがそれぞれ異なる専門分野になりますが、学生が主体的に進路を選択する教育面の根底の部分は共有しています。その共有部分を軸とした、各キャンパスの連携強化を大切に考えています。

また、島根県立大学も設立から15年が経ち、学生たちにとって頼もしい相談相手になつてくれるような、社会で多くの経験を積んだ卒業生も多くなりつつあります。そうしたOBやOGとの連携強化を図ることで、今後の取り組みに活かしていきたいと考えています。



キャリアセンター センター長
総合政策学部(浜田キャンパス)
久保田 典男 准教授



contents 目次

- p 01 ▶ 特集「キャリア支援」
- p 05 ▶ キャンパス紹介・研究紹介
- p 11 ▶ 学生活動紹介「doing」
- p 13 ▶ News&Topics

○ 浜田キャンパス

松尾 哲也 副センター長

**体験型の豊富な学習プログラムで
たくましい人間力を育成**

浜田キャンパスの大きな特色として、3年生全員を対象とした、模擬面接の実施(11月)があります。これは、自己紹介書の提出を前提とすることで、志望先等、各学生に合わせた具体的な内容を盛り込むことのできる本格的なものです。

教育面では、インドとタイの企業・大学を訪問する、海外企業研修(1~3年生



学生の希望進路に合わせた模擬面接を実施。面接の注意点やポイントを学びます。

対象)。学生生活の充実と、そのモチベーション向上に主眼を置く、1年生対象の「キャリア形成I」と、自己PRや企業研究の実践等を学ぶ、3年生対象の「キャリア形成II」も、浜田キャンパスならではの大きな特色で、I・IIともに大学OBやOGを招いた講義等を含む、広い社会的視野に立った内容になります。

また、インターシップの事前教育の科目「インターシップ入門」が平成27年度より導入され、インターシップの意義やビジネスマナー等を学習していきます。

体験型で実社会に即応するための学習が特徴的な浜田キャンパスのキャリア支援。目の前の様々な困難を克服する力と、雇用情勢に左右されない、たくましい人間力を育成していきます。

学生の不安解消をバックアップ

高い就職率に繋がる

キャリア支援

○ 松江キャンパス

小泉 凡 副センター長

**きめ細かい支援をおこなう
「キャリアアプランニング」**

3キャンパスの中で唯一の短期大学である松江キャンパスの学生は、1年生の終わりの春休みには就職活動が始まります。そこで1年後期には3学科共通の基礎科目「キャリアアプランニング」を開講しています。キャリアに対する意識の向上や、就職活動に向けての具体的な支援を目的とした科目です。企業や就業に関する入門的知識を学ぶことに始まり、企業や卒業生、さらにローワークなどの関係機関から外部講師を招いて、就活マナーや履歴書の書き方など、キャリアに直結する豊富なカリキュラムが組まれています。

また、3学科(健康栄養・保育・総合文化)を擁する当キャンパスでは、学科ごとに卒業後の進路が異なるため、それぞれの学科に合った支援が必要です。そこで各学科の担任教員やキャリア委員が中心となって入学から卒業までをサポートします。



企業や卒業生、関係機関から外部講師を招いての講座は、学生達にとっても貴重な時間となります。

加えて、短期間で将来を考えなければいけない松江キャンパスの学生にとって、保護者の理解も重要と捉え、保護者にキャリア支援の重要性を理解し、関心を持つってもらうための懇談会を設けています。これにより、教員と学生、教員と保護者の信頼関係も強まり、さらにきめ細かい支援を実現しています。

就職率

96.8%

(平成27年5月時)

○ 出雲キャンパス

石橋 照子 副センター長

**入学前から卒業後まで一貫した
キャリア支援体制を整備**

カリキュラム全体がキャリアに直結する出雲キャンパスでは、その上でさらに特化した手厚い支援を用意しています。

大きな特徴として、入学前から卒業後まで一貫して支援する「エンロールメント・マネジメント」の取り組みがあります。これは、大学が対象者への生涯学習サポートをはじめ、職業上のあらゆる悩みを相談できる窓口となるものです。県内就職率7割という出雲キャンパスにおいて、本制度が担う役割は重要ですが、新人の就職率が高い看護の世界にあって、島根県内の新人離職率が近年大幅に減少するなど、すでに大きな成果を上げています。

また、在学生向け支援プログラムとして、出雲キャンパスが独自に取り組むものに、「キャリアアンカー講座」があります。「ラベルワーク技法(※)」を用い、仕事に対するアイデンティティを明らかにしていくことで、学生個々の職業意識を高めるプログラムです。患者と向き合う看護の現場で、日々の仕事に「これないたくましさ」を身につけるための意欲的な取り組みが始まっています。



2年生時に受講する「キャリアアンカー講座」では、自分を見つめ直し、より将来を意識させる機会をつくれます。

※学習に対する感想や意見、考えなどをラベルに書き込み、自分を図解的・体系的に理解していく技法。

大学全体で高い就職率へ繋げるためにおこなわれているキャリア支援。その中心となるのが各キャンパスに置かれた「キャリアセンター」です。各キャンパスに合わせたキャリア支援の特色について、それぞれの副センター長にお聞きしました。

※出雲キャンパスについては平成26年度は看護学部の新入生がいないため、平成25年度の就職率及び就職先とする。

主な就職・編入先※

就職・編入先一覧

県内企業

浜田キャンパス	出雲キャンパス	松江キャンパス
島根電工株式会社 建設	島根県立病院 看護師	松江赤十字病院 栄養士
株式会社山陰中央新報社 情報通信	松江赤十字病院 看護師	社会福祉法人友愛会 栄養士
株式会社山陰合同銀行 金融	島根大学医学部附属病院 看護師	ふたば保育所(社会福祉法人松生会) 保育士
株式会社島根銀行 金融	松江市立病院 看護師	仁摩保育所(社会福祉法人仁摩福祉会) 保育士
島根県 公務	奥出雲町立奥出雲病院 看護師	社会福祉法人仁多福祉会 保育士
江津市 公務	飯南町立飯南病院 看護師	島根銀行 金融業
株式会社ウェルネス湖北 小売	大田市立病院 看護師	島根トヨタグループ 小売業
東京靴株式会社 小売	浜田医療センター 看護師	スズキ自販島根 小売業
株式会社岩多屋 小売	島根県 保健師	玉造グランドホテル長生閣 宿泊業
株式会社しちだ・教育研究所 教育・学習支援業	飯南町 保健師	島根県(一般事務・学校事務・警察官・警察事務) 公務
アースサポート株式会社 複合サービス	島根県立中央病院 助産師	松江市立中央図書館 司書
	島根大学医学部附属病院 助産師	編入学
	公立邑智病院 助産師	島根県立大学
	浜田医療センター 助産師	島根大学

県外企業

浜田キャンパス	出雲キャンパス	松江キャンパス
飛鳥建設株式会社 建設	国立国際医療研究センター病院 看護師	日清医療食品株式会社 栄養士
株式会社アドパネクス 製造	神戸市立医療センター 看護師	富士産業株式会社 栄養士
ミヨシ油脂株式会社 製造	鳥取大学医学部附属病院 看護師	社会福祉法人米子福祉会 保育士
西日本旅客鉄道株式会社 運輸	広島大学病院 看護師	学校法人矢谷学園鳥取幼稚園・認定こども園 保育士
ヤマトホールディングス株式会社 運輸	九州医療センター 看護師	株式会社エフピコ 製造業
トラスコ中山株式会社 卸売・小売	広島市 保健師	山陰酸素工業株式会社 電気・ガス
昭和産業株式会社 卸売・小売	山口市 保健師	編入学
日本政策金融公庫 金融	岩国市 保健師	筑波大学
明治安田生命保険相互会社 金融	京都第二赤十字病院 助産師	高知大学
	舞鶴共済病院 助産師	山口県立大学 ほか
	広島市立広島市民病院 助産師	
	小倉医療センター 助産師	

地域とつながる 世界へひろがる

浜田 キャンパス

HAMADA Campus
http://hamada.u-shimane.ac.jp/



基礎知識を学び、島根への理解を深める新科目 「しまね地域共生学入門」がいよいよスタート

出雲、松江に先がけ、浜田キャンパスで平成27年度より始まった新科目「しまね地域共生学入門」。島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識の習得を目的とする本科目への取り組みを紹介します。

全新生(※1)を対象にして、島根県が抱える諸課題に関する授業を1学期にわたっておこなう本科目。県外からの入学生も多い浜田キャンパスにおいては、入学したばかりの学生達に、島根の地域性への理解を深めてもらうという大きな目的もあります。

本科目は、3キャンパスの教員それぞれの専門性を活かした、オムニバス形式による多彩な内容が用意されますが、それによって講義全体の体系性を失わないよう、各担当教員が他の講義回との関連性を持たせるべく、幼少年期、青壮中年期、老年期という、3つのライフステージを共通で用いることで、課題を整理し、身近な問題に捉えながら知識を修得していきます。

また、浜田キャンパスでは、この取り組みを「しまね地域マイスター(※2)」認定制度に向けた基礎科目として位置づけ、学生たちの基礎的な実践力を養成していきます。



4月8日に開講された記念すべき第1回目の講義。本学学長や林秀司地域連携推進センター長から、具体的な講義内容はもちろん、講義目的等の説明があり、在学中に学んで欲しいことなどの学生へのメッセージが送られました。学生達は皆真剣なまなざしで想いを受け止めていました。今後、ここから学んだ学生の中から地域で活躍する専門家の誕生が期待されます。

※1 全キャンパス共通科目としては、平成28年度からの実施。

※2 島根県内の諸事情・諸問題に精通し、地域問題の実践的解決力を持った学生に対して認定する制度。

Research
Report
研究レポート

地域全体でのプラス効果を追求し、 石見空港の維持管理に役立てる活動を

電力、ガス、交通といった、公益事業ネットワークを専門に研究する中、ライフワークとも言えるべき空港の調査研究に辿り着いたという総合政策学部の西藤真一准教授。全国の空港を研究対象として取り組まれる西藤准教授に、今回は「石見空港」に焦点をあてた活動をお聞きしました。

地域にとって大切な空港
維持するための題材を提供

「空港をどう維持していくのか」という課題が注目されるなか、利用者数も少なく、収益率も高くない石見空港は、民営化という手段は現実的ではない。ならば、どうすれば適切に維持管理することができるのか?それが私の大きな課題のひとつです」と西藤准教授。

平成20年、それまでデータすら存在しなかった国内空港別の収支バランスを推計するという一大



益田商工会青年部主催の「空港利用促進会議」では、石見空港のあり方や今後についての議論がおこなわれた。

プロジェクトへの参画以降、空港を研究対象としてきた西藤准教授は、外国との比較研究などを進めるなかで、「従来の水準でのインフラ維持が困難になったとしても、石見地域にとって、インフラ(空港)はそれでも必要なもの。仮に石見空港の収益が下がったとしても、空港があるおかげで人が集まり、観光が活性化する。そういう『地域全体でのプラス効果』を合理的に説明し、空港を維持していくため地域の皆さんに、『考える題材を提供』することが大きなテーマです」と続けます。

地域との連携、学生主体の研究と
空港維持のための模索は続く

そうした調査研究の他、全日空、研究機関や関係各自治体などを招いたシンポジウムや、民間での勉強会、さらに平成25年からは、本学と益田市の連携協定に



学生自身も実際に空港へ足を運び、空港の実情を学ぶことで、維持活用のためにはどのようなことが必要かを考える。

よる学生主体の共同研究もおこなわれ、その成果が石見空港のPR(フェイスブック)することにも成功しました。

こうした取り組みを通じて、「地域や行政の方々、皆やる気に満ちていて心強い。こうした人々がいる限り、石見空港にはまだ頑張れる余地がある。今後は地域の魅力づけをおこない、石見全体としてPRしていくなど、さまざまな方策を模索して、石見空港を次世代に引き継いでいきたい」。そう力強く語った西藤准教授の活動はまだまだ続きます。



総合政策学部(浜田キャンパス)
西藤 真一 准教授

■専門分野: 交通政策・経済規制政策
国内のみならず、海外へも目を向け、あらゆる角度から空港の今後の課題、維持管理について研究、地域への落とし込みをおこなう。

HAMADA Campus



お問い合わせ

■ 浜田キャンパス 地域連携課 TEL.0855-24-2396
http://hamada.u-shimane.ac.jp/communication/community/

文部科学省
地(知)の拠点

研究方法

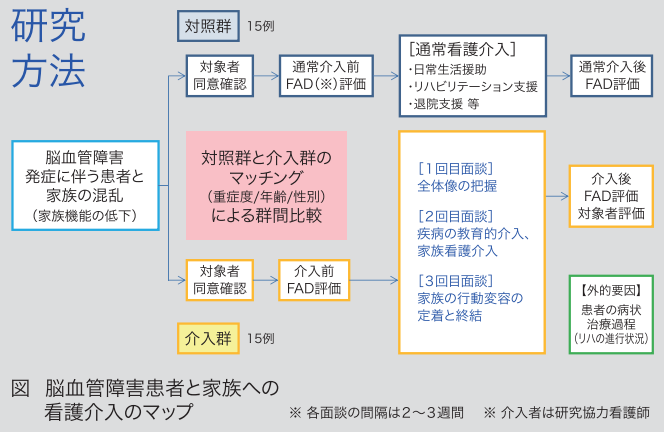


図 脳血管障害患者と家族への看護介入のマップ ※各面談の間隔は2〜3週間 ※介入者は研究協力看護師

梶谷教授の研究方法を表した図。看護師が通常の看護をおこなう場合と、家族への面談を含んだ場合との内容の違いを表している。
※家族機能評価 (Family Assessment Device)



実際に患者のケアをする看護師との研修の様子。現場と日々密接に関わり現状を捉えながら、教育と研究に動いている。

Research Report
研究レポート

日常的な看護の現場で脳血管障害患者とその家族を支える意欲的な取り組み

脳出血や脳梗塞などに代表される、脳血管障害を発症した患者とその家族との間に起こる「家族機能の低下」。それに対して、看護師は日頃のケアの中で「一体何が出来たかをテーマに研究活動をする、看護学部長の梶谷みゆき教授に、活動の重要性や今後の展開についてお聞きしました。

突然発症する病気が引き起こす家族機能の低下をケアする活動

訪問看護の仕組みが確立していなかった20年前、教育者としてその必要性を感じ、試行錯誤をする中、「看護師が患者とその家族に関わるにはどういう力を持たなければならぬのか」という課題への訴求が今の研究活動に至るきっかけという、梶谷教授。

研究テーマになる、脳血管障害は、突然発症する代表的な

疾患で、これに直面した家族は、様に混乱し、介護や生活等、あらゆる問題を抱えることとなります。梶谷教授は、これを「家族機能の低下」と呼びます。

この研究活動は、家族機能低下に陥った家族が、家族間コミュニケーションや意志決定などを現実的かつ速やかに考えられるよう、看護師が支えていく仕組みを目指したものです。

「看護師が日常的なケアの場面で、家族に関われる、支えられる力を身につける取り組みにしていきたい」と梶谷教授は続けます。

心技両面の技術向上を前提に研究成果を医療の現場で活かす

具体的には、家族の会話や関係から、そこに何が起きているかを判断し、カウンセリング的な要素を含む面接をおこないます。



梶谷教授の授業の様子。看護師役、家族役といった役を決め、面談をロールプレイングでおこなう。

ここに至るには、デリケートな部分に踏み込む必要があるため、看護師が日頃からしっかりとケアが出来ている（家族に信頼されている）ことが前提という、つまり看護師個々のスキル向上が必須の活動になるものです。

それを円滑に進めるべく、研究成果を実際の医療現場で活用する取り組みが始まりました。看護師、ひいては家族を支える医療の質を高める研究活動へ、また看護職を養成する基礎教育に取り入れることも視野に入れています。



看護学部(出雲キャンパス) 看護学部長
梶谷 みゆき 教授

■専門分野: 地域・老年看護学
現場の看護師の前でも研究の内容を研修で伝えるなど、患者と家族両方のためになるよう研究活動を続けている。

IZUMO Campus

「ひと」を支え「地域」を支える

出雲キャンパス

IZUMO Campus
<http://izumo.u-shimane.ac.jp/>



ポイント制を導入した画期的な行動療法「いずもサマースクール」の取り組み



■ スタッフ研修会(※2)

学生やボランティアとして参加する近隣学校の先生のため、基本知識やシステム、実際の活動などの知識と技術を習得するための研修を事前におこないます。



■ 保護者会

保護者の方にも取り組みの内容を知ってもらうことはもちろん、不安や悩みを相談し合い、共有することで、情報交換の場にもなります。



■ ポイント制システム

登校から下校までの流れの中で、一部を除き全ての活動がポイント制です。それぞれに「きまり」があり、守れば加点、破れば減点となります。



■ 軸となる3つの活動

スポーツ・学習・創作活動を軸としてプログラムが組まれています。こうした活動の中で、子ども達はルールを守りながら人との関わりも学んでいきます。

ADHD(注意欠如多動性障害)のある、小学校3〜6年生を対象に、夏休み期間中の5日間をつかって実施される「いずもサマースクール」。今年で6回目を数えるこの意欲的な取り組みを統括する、高橋恵美子准教授にお話をお聞きしました。

ADHDのある子どもたちの親からの相談に対応するべくスタートした「いずもサマースクール」は、先行する「くるめSTP(※1)」の支援を受け、独自に取り組む活動です。スポーツ、学習、創作活動を軸とするプログラムがあり、それに含まれる「ルールを守って活動する」に対応したポイント制の導入が最大の特徴です。「各活動に細かいルールを設定して、守れなかった場合は減点していきます。この減点方式が重要で、『どれだけルールが守れたか』を子どもたちにフィードバックし、守れた場合はしっかり褒める。これが頑張ったという経験になり、子どもたちの自信に繋がっていきます」と高橋准教授。

また、将来看護職として働く学生たちにとっても、ADHDを学ぶ絶好の機会になっており、今後はペアレントトレーニングを含んだ、周辺の大人たちへの環境づくりにも役立てていくそうです。

※1 STPとは、Summer Treatment Programの略。1980年代頃にアメリカで実施されるようになった、発達障がい児と家族のための包括的治療プログラム。日本では、久留米大学の山下裕史朗氏が初めてこのプログラムを取り入れたことからこう呼ばれている。
※2 写真は身体拘束の練習時の様子。子ども達の中には、危険且つ攻撃的な行動を見せる場合が想定されるため、子ども達もスタッフもケガをせずプログラムをおこなうために、こうした身体的管理の方法についても学ぶ必要がある。

お問い合わせ

■ 出雲キャンパス 管理課 TEL.0853-20-0200
<http://izumo.u-shimane.ac.jp/>



看護学部(出雲キャンパス)
高橋 恵美子 准教授



しまね和牛を中心とした食肉の生産過程をはじめ、県内農畜産物の生産・加工過程を学ぶため学外へも学びの場を広げている。

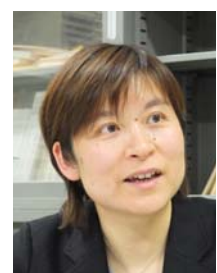


学生や教職員の協力のもと、官能試験や理化学分析をおこない、おいしさを科学的に検証する。

そして、この研究の視点を変えて発展させたのが、米農家の作る米味噌と、地元食品加工会社とでチームを組むという、産官学的な連携をさらに進めた企画として完成した、ペースト状の加工肉食品「しまね三昧リエット(仮称)」です。昨年5月に開発を開始し、学内外での試食

会などで研鑽を重ね、今年2月に完成したものです。高齢者向けの食品開発という面だけでなく、幅広い年齢層にマッチした食品として期待がかかりますが、「生産者、消費者、企業といった地域の要望をくみ取り、そこに何を提案できるか、何を実行するかが大学の役割」と強調する籠橋准教授。

※1 リエットとはフランスの肉料理の1つ。肉を香草・香辛料などと煮込み、細かくほぐしてから脂肪と混ぜ、ペースト状にしたもの。保存食として作られ、パンにのせて食べることが多い。通常豚肉を使用することが多いが、「しまね三昧リエット(仮称)」は県内の農畜産物にこだわり、しまね和牛や、そのほか、斐川町産出西生姜や松江市西長江の米味噌、雲南市の山椒といった県内産物を多数使用。



健康栄養学科(松江キャンパス)
籠橋 有紀子 准教授

■専門分野:応用生物化学・環境生理学・解剖学一般
「しまね和牛肉」の食味研究などのほか、糖尿病の予防および治療についても研究をおこない、その分野では特許も取得。

Research Report
研究レポート

産官学による「しまね和牛」の食肉開発で地域を活性化

医学博士として、主に理化学分析を用いたさまざまな研究分野に取り組んでいる、健康栄養学科の籠橋有紀子准教授。その専門性を活かしたしまね和牛の食肉開発から、産官学連携の加工食品「しまね三昧リエット(仮称)」(※)の誕生まで、地域に深く関わる研究活動についてお聞きしました。

地域産品のコラボレーションで高齢者向けの柔らかい牛肉を

理化学分析という専門を活かして、しまね和牛を利用した高齢者向け食肉開発を手がける籠橋准教授は、「より良い肉質を生み出すため、さまざまな条件で育てられた牛肉の食味を含めた分析を続ける中で、モモ肉やネック、すじ肉など、肉質が固く、調理法なども限られていた部位に、肉を軟化させる効果のある生姜を用

いた、高齢者でも食べやすくするための開発へと発展していった」と言います。この取り組みは、高齢者が食べやすい食肉の開発だけでなく、地域連携として斐川町産の出西生姜を使用し、その中でも用途のなかった葉の部分を活用することで、特産品としての付加価値を高めるなど、地域貢献的にも広がりのあるものです。



産官学が連携し形となったリエット。地域の農畜産物の特性が存分に活かされている。

地域の「人・もの(ニーズ)を結ぶ大学の技術(シーズ)による取り組み

明日への力を蓄え 自分を創造する

松江キャンパス

MATSUE Campus
http://matsuec.u-shimane.ac.jp/



本格講座から文化資源探求、卒後教育まで松江キャンパスならではの地域に向けた公開講座



源氏物語を読む

三保サト子名誉教授による、開講時から続く人気講座。原文に触れ、テキストを元に読解することで、源氏物語への理解度を深めます。



松江ゴーストツアー

NPO法人と連携し、小泉八雲の怪談話を堪能する、夏の夜の文化探訪ツアー。小泉凡教授による講演や怪談にまつわる場所を訪ねます。



文化資源探求講座

学内での座学ではなく、学外に出て山陰の文化資源を肌で感じ、観察、探求しようという趣旨で実施されている人気講座です。



ステップ(スキル)アップ講座

管理栄養士免許取得を目指す卒業生や県内の栄養士、養護・保育職従事者を対象とした、ステップ(スキル)アップ講座も開講中です。

※1 初年度より講座数を増やし、平成5年度より「椿の道アカデミー」として現在に至る。
※2 NPO法人 松江ツーリズム研究会



お問い合わせ

■松江キャンパス 管理課
TEL.0852-26-5525
http://matsuec.u-shimane.ac.jp/communication/coc/community/

しまね地域共生センター センター長
保育学科(松江キャンパス)
山下 由紀恵 教授



松江キャンパス管理課
公開講座担当
藤原 香緒里 さん



学生活動紹介



学生×大学×地域 繋ぐ架け橋となる県大生

各キャンパスそれぞれの地で、特色を活かした活動をおこなっている県大生。サークルや委員会と形は様々ですが、どの団体も大学を、そして地域を良くしたいという想いで活動しています。そんな学内外で活躍する学生達に、活動に至るきっかけや活動内容について話を聞きました。



「学生図書委員会」は、より多くの学生に図書館を利用してもらうため活動しています。

○松江キャンパス 倉上 朱莉 さん (総合文化学科 2年)



「学生図書委員会」は、図書館と学生の橋渡し役として、今、大学生が何に興味を持っているのか、どんな本やジャンルが人気なのかといった、学生の生の声を大学司書の方々に伝える役割や、学生の図書館利用を促進するイベントの運営が主な活動です。例えば、図書に関する各種情報を掲載する図書館新聞の定期発行や、参加者それぞれが読んだ本のPOPを作成して、その出来映えを競う「読書マラソン」の主催、また、オリジナルの

しおり作成を通じて、本と人をつなぐ活動「kumori」とのコラボレーション企画や、全国の大学図書館交流シンポジウムに参加しての学外交流、さらには、市民参加の読書会をひらくなど、幅広く活動しています。委員会メンバーの多くが司書資格を目指す学生ということもあり、資格取得に向けてお互いにモチベーションを高め合ったりと、活動以外でも有意義な時間が過ごせています。今後の目標として、まずは1年生委員を多く獲得すること。そして、これまで交流の少なかった、浜田・出雲キャンパスの図書委員との交流を強化するための行動を起こしていきたいと思っています。



1.山口で開催された交流シンポジウムでは、県立大学を含め、全国の大学の活動報告がおこなわれた。2.kumoriのデザイナーである渡辺ゆきさんとコラボして、ブックカバーやクリアファイルも作製。

「学生FD活動縁—えにし—」は、授業や教育の改善に取り組みむ学生たちの活動です。

○出雲キャンパス 田村 優季 さん (看護学部 4年)



FD(※)活動とは、教職員の方々が授業の質向上に取り組む活動のことですが、活動の生まれた欧米では学生の参画も盛んなこともあり、近年では、日本でも独自の「学生FD活動」として活発になってきています。私たち「学生FD—縁—」も、そんな追い風の中、本学教職員からの呼びかけで昨年発足しました。



1

産業大学で行われた「学生FDサミット」に参加しました。ここで意識を高め、昨年12月に教職員の皆さんとのランチミーティングを開催。そして、私たち以外の学生にも参加を呼びかけた第2回目では、それがきっかけとなりメンバーも増えました！他にも、先進的な取り組みを行っている追手門大学へ勉強に行ったりと、今はまだ本格的な活動のための土台作りという感じですが、試行錯誤しながらも楽しく活動しています。

この活動を通じて分かったのは、教職員さんも学生も、お互いにコミュニケーションを求めていることでした。今後も双方の思いを橋渡しできるような活動を心がけていきたいです。※FD=Faculty Development



2

1.学生と教職員とが集まり「よい授業とは」について意見交換をするしゃべり場の様子。2.全国から48大学、480名が参加した学生FDサミットにも参加。

「地域密着でこねっとサークル」は、地域を盛り上げるボランティアサークルです。

○浜田キャンパス 山田 千夏 さん (総合政策学部 3年)



私たち「地域密着でこねっとサークル」は、地域おこしイベントへの参加やサポートを中心としたボランティアサークルです。サークル設立のきっかけにもなった「NPO法人でこねっと石見」さんからの依頼を受けての活動が多く、主に江津市で活動をしています。昨年度の活動では、街遊びイベント「つなぎ市」で、中高生と大人の方たちとの橋渡し役として



1

企画をコーディネートしたり、古い街並みの残る菟街道を舞台とした「ふらり[fula:Re]」では、運営の補助などをおこなっていました。部員は、ボランティアや街づくりに興味のある学生が中心です。活動の中で多くの人と出会い、そこからさらに人の輪が繋がりが広がっていきまます。このサークルでしか味わえない体験も多く、それが部員の原動力にもなっています。

とはいえ、部員によっては活動に対する温度差もあります。今年は、全員の意識向上を心がけつつ、「石見が大好き！」という学生を増やしていきたいです。



2

1.ふらり[fula:Re]では、運営の補助をする中で地域の人と交流し、出会いが生まれました。2.地域を元気に!!若い力が溢れているサークルメンバー。

島根県立大学未来ゆめ基金へのご協力に心よりお礼申し上げます。

『島根県立大学未来ゆめ基金』につきまして、平成26年10月1日から平成27年4月30日までの間に、下記のとおり個人44名、法人・団体等6名の皆様から総額2,171,450円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

【個人からのご寄附】

上見 哲也	兼平 恭輝	永井 孝	安井 裕久
石見 治彦	加納 健一	柳楽 信雄	山下 正彦
大石 宗男	久保 博	橋本 学	山中 多希子
岡田 久樹	佐々木 清	日熊 徹	山中 千佳
樺野 弘和	杉山 和子	福井 修司	若山 歩
勝田 豊	園山 富重	増金 裕希	
門脇 弘政	竹長 隆	松本 良雄	

【法人・団体等からのご寄附】

株式会社岩多屋	浜田ビルメンテナンス株式会社
島根県民共済生活協同組合	有限会社夢工房

※五十音順、敬称略
 ※ご寄附をいただいた皆様の中で、ご芳名の公開を希望されない方につきましては掲載しておりません。
 ※申込書は本学ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますのでお問い合わせください。



事務局財務課 TEL:0855-24-2218 申込パンフレット



産官学連携商品、「しまね三昧リエット(仮称)」の試食会を実施しました。



学生たちが考案した、リエットを使ったカナッペや焼きおにぎりなど、彩り豊かなメニューが並んだ試食会。

3月24日、健康栄養学科の籠橋研究室に所属する、3名の卒業研究生の研究成果を活用して開発した「しまね三昧リエット(仮称)※」の試食会が、「レストランカフェメリメロ」でおこなわれました。開発は、いずも八山椒(有)、JAしまね雲南地区本部、島根県と協働しおこなわれ、産官学の力を組み合わせて完成しました。試食会では、学生とシエフがそれぞれ考案した9種類のメニューが関係者に振る舞われました。

※P.10に研究についての詳細あり



平成26年度学生表彰をおこないました。



授与式にて各賞を受賞した学生たち。受賞内容は、ボランティアなどの社会活動から、柔道やソフトテニスの全国大会での優勝など様々。



平成27年3月、各キャンパスにおいて、「島根県立大学賞」及び「島根県立大学短期大学部学長賞」の授与式をおこないました。この各賞は、本学の学生が、学術、芸術、スポーツ、文化活動及び社会活動において、他の学生の模範となる行動をおこなうか、もしくは優秀な成果を挙げた場合などに、その活動を評価し表彰するものです。平成26年度は、「島根県立大学賞」に浜田キャンパスから個人6名、団体2団体が出雲キャンパスからは個人3名が選ばれ、また、「島根県立大学短期大学部学長賞」には松江キャンパスから個人2名が選ばれ、それぞれ表彰されました。平成15年度からはじまった表彰式は、平成16年度を除き、それ以降は平成26年度まで毎年表彰されています。

News & Topics

県大の今がわかる! ニュース&トピックス



PRESENT

ご意見・ご感想をいただいた皆さまの中から抽選で、島根県立大学のマスコットキャラクター「オロリン」のぬいぐるみを1名様、おはなしレストランライブラリーのロゴ入りバッグを5名様様にプレゼントします。ご意見は、本誌差込ハガキまたは、メールにてお寄せください。

※どちらのプレゼントになるかはお選びいただけません。
 ※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。
 ※応募締切/平成27年8月7日必着



■メールでの投稿はこちら
 島根県立大学 広報誌オロリン事務局
 E-mail:kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

編集後記

オロリン第4号を手にとりいただき誠にありがとうございます。

今号の特集では、本学のキャリア支援について、学長やキャリアセンター長はもちろん、各キャンパスの特色について副センター長にインタビューしています。また、本学でキャリア支援教育を受けた卒業生が社会で活躍している様子をご紹介します。いかがでしたか?

広報誌に関するご意見、ご感想をお待ちしております。「オロリンvol.5」は12月発刊予定です。どうぞお楽しみに!



地域振興、活性化をテーマにした「優秀卒業研究・論文発表会」を開催しました。



発表会では、最優秀賞1名のほか、浜田市長賞や奨励賞など16名の学生が賞を受賞した。

2月19日、地域の方も清聴される中、「第12回地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」を開催しました。本学が開学以来掲げている「地域に生きる大学」らしく、地域振興や地域活性化をテーマにした発表が多く取り上げられました。最優秀賞に選ばれた戸川翔太さんの西条酒を例にした発表をはじめ、5名の学生が自身の研究・論文について発表しました。発表後の質疑応答では、地域の方との意見交換も見られました。



「開学20周年記念式典・祝賀パーティー」を開催しました。



3月27日、平成27年に島根県立看護短期大学として開学し、本年度で20周年を迎えることとなった出雲キャンパスが、「島根県立大学出雲キャンパス 開学20周年記念式典・祝賀パーティー」を挙行・開催しました。本田学長の式辞からはじめ、まったりとした式典には、来賓、本学教職員合わせて約1000名が集まり、20周年にふさわしい式典となりました。その後おこなわれた祝賀パーティーにおいては、約50名の卒業生・修了生も駆けつけ、懐かしい面々が揃うとともに、パーティーに花を添えてくれました。パーティーの中では、20年間の歩みを大学関係者やOB・OGの回顧録で綴った記念誌「にんげん大好き」の発行報告や、記念植樹の実施報告、さらには、在学生バンド「スイングガールズ」と、新旧教職員によるバンド演奏がそれぞれおこなわれるなど、様々なアトラクションも交えて、盛大なパーティーとなりました。

1.学長の式辞の様子。式辞の中で、これまでお世話になった方々への感謝と、今後の出雲キャンパスについて述べられた。2.学生バンド「スイングガールズ」の演奏で、会場は一層の盛り上がりを見せた。3.式典の中で報告がされた記念誌「にんげん大好き」。

